

小学校教科用図書調査研究資料

図画工作

開隆堂出版
日本文教出版

令和5年度

中高・飯水地区小学校教科用図書採択研究協議会

種目（図画工作）

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">開隆堂出版（図画工作）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた内容と育てたい力を踏まえて各題材がバランスよく構成され、知識・技能が習得できるように配慮されている。 ・多様な表現が掲載され、発想や構想を膨らめて創造的に表現する中で、見方や感じ方を深めていけるように配慮されている。 ・友や地域とかかわり、形、色、言葉等を通した造形活動の学びが社会とのつながりへと進むよう配慮されている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 低学年の手や体全体の感覚などを働かせてつくる題材から、高学年の構成の美しさ、表現方法の組み合わせを意識した題材まで、児童の発達段階に応じた内容となるよう配慮されている。 (2) 楽しい題材名と活動の内容と手順が写真と言葉で示され、児童が進んで取り組みたくなるように工夫されている。 (3) 製作の後に鑑賞し合ったり、遊んだりできる題材が工夫され、児童が感性や想像力を働かせてイメージを膨らませ、活動を楽しめるよう工夫されている。 (4) 用具の扱いは「学びの資料」として系統的にまとめて写真やイラストで明示され、動画でも視聴できるようにして、安全について学べるよう配慮されている。 (5) 内容をイメージできるような題材名やリード文のデザイン、読み取り易いユニバーサルデザインフォントの使用などで児童の意欲が促されるよう工夫されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 同じ材を使用した題材でも、学年の目標に即し、用具や表現方法、材へのかかわり方を対応させながら、3つの資質・能力をバランスよく育む工夫がされている。 (2) 段階的に発想や構想を広げていけるよう系統的に題材配列がされ、表現と鑑賞を一体的に扱えるよう工夫されている。 (3) 材料や対象に触れて感じ、考える児童の写真や言葉を掲載して発想や構想を深めたり、友と協力して表現する活動で作品に対する見方や感じ方を広げたりできるように配慮されている。 (4) 巻末の「学びの資料」に材料や用具の知識、使い方の工夫、手順等が図や写真・文章で明示され、必要に応じて参照し、造形的な表現がしやすいように配慮されている。 (5) 発想や構想のヒントとなる児童作品や紹介文と共に、タブレット端末で掲載作品を回転させて見たり、掲載以外の作品を見たりして表したいことが見つけられるよう配慮されている。 (6) 中心となる目標に対応した「ふりかえり」が設定されており、主目標に対応したキャラクターの言葉につなげて、題材で培った資質・能力が確認できるよう配慮されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材では3つの資質・能力のうち一つを中心的な目標として示し、主目標に対応したキャラクターが児童の学習を深める支援を行うよう工夫されている。 ・多彩な作品例が掲載されており、児童の興味や関心に応じて発想や構想を膨らませていけるように工夫されている。

種目（図画工作）

<p style="text-align: right;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">日本文教出版（図画工作）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点で知識及び技能が習得できるよう、自分の感覚や行為を大切に学ぶ題材が扱われるよう配慮されている。 ・自分が感じたことや体験から発想や構想をする児童の姿と、多様な表現が掲載され、創造的な表現を促すよう配慮されている。 ・造形活動を通して、感じ取ってほしいことや他教科、社会、生活との関わりが示され、進んで関わる態度を培う配慮がされている。
<p>2 児童の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1)各学年の内容の系統に準拠した題材、材料や用具が適切に取り扱われ、目指す資質・能力が育成されるよう配慮されている。用具の扱い方も、児童の発達と学年の順序性に留意されている。 (2)教科書の見開きの中に、製作過程の写真と児童のつぶやきが多く示され、造形活動のよりどころとなるよう工夫されている。 (3)各題材に「学習のめあて」が示されて児童が見通しをもって造形活動に取り組み、「ふりかえり」を促す問いかけで身に付けた力を自覚し、次の活動へつなげていく配慮がされている。 (4)巻末の「材料と用具のひきだし」で、安全で適切な扱いができるように写真やイラスト等で示し、「思い出そう」で既習事項の確実な定着を図っている。 (5)全ての児童が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色などに配慮すると共に、題材名は見やすく、楽しく取り組めるようデザインされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1)全ての題材に図画工作科の目標に基づく「学習のめあて」が示されており、育成を目指す資質・能力の三つの柱が児童に分かりやすい言葉で表されている。 (2)「教科書美術館」や「広がる図工」を、関連が深い題材とつなげ、表現と鑑賞を往還しながら学びを深める工夫がされている。 (3)「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」「鑑賞のヒント」には、児童の造形的な見方・考え方を働かせる投げかけが示され、深い学びにつながるよう工夫されている。 (4)自分の表したいことが工夫して表せるよう、材料や用具の基礎的な扱いを写真やイラストで説明すると共に、一人一人の学習進度に合わせてQRコンテンツの活用ができるようにしている。 (5)学習の流れが見えるように紙面が構成され、児童の多様な発言や作品の写真を掲載し、自分ならこうしたいという思いが持てるよう工夫されている。 (6)「ふりかえり」で感じたり考えたりすることを例示し、児童の気づきを大切にした学習過程の振り返りができるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な見方・考え方を働かせて学習できるように、全題材を通して造形的な視点で捉え、自分のイメージをもって意味や価値をつくりだせるように図版や吹き出しなど配置されている。 ・発想や構想、鑑賞などの場面で児童がひとやものと対話しながら活動する様子を紹介し、協働的な学びを促している。